

販売店様専用

RS-mini メンテナンスマニュアル

メンテナンスの前に必ずお読みください

目次

- 1. RS-mini の仕様について P 2
- 2. メンテナンスの必要性について P 3
- 3. ストーブの内部構造 P 4
- 4. メンテナンス作業に必要な工具類や交換部品 P 5
- 5. メンテナンス作業を行う前に P 6
- 6. メンテナンス項目、手順 P 6 ~ P 2 5
 - ① 燃焼炉 P 7 ~ P 9
 - ② 燃料タンク P 1 0
 - ③ 本体機械室、電装品 P 1 1 ~ P 2 3
 - ④ 給排気筒 P 2 4 ~ P 2 5
- 7. 動作確認 P 2 6

1. RS-mini の仕様について

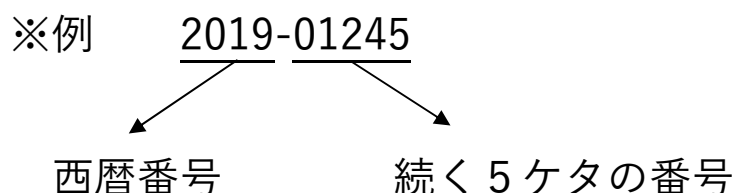
製品の製造番号によって電装品の仕様が異なります。

メンテナンス前に型式や製造番号を確認してからメンテナンスをおこなってください。

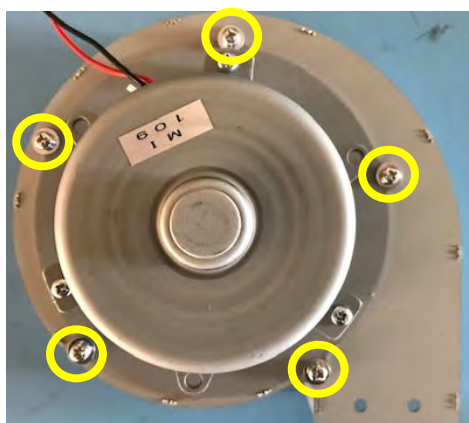
【注意！】

いずれの仕様も電装品（排気ファン）を清掃するためにストーブ本体と給排気筒を分離させる必要があります。設置環境や給排気筒の取り回しによっては2名での作業が必要となります。

【製造番号による仕様の違い】



- ・ 排気ファン脱着不可
（西暦番号に続く 5 ケタの番号が 00450 までの製品）
- ・ 排気ファン脱着可能
（西暦番号に続く 5 ケタの番号が 00451 からの製品）



（脱着可能な排気ファン）

※脱着不可の電装品と、可能の電装品はメンテナンスの方法が異なりますので、マニュアルに従い清掃をおこなってください。

2. メンテナンスの必要性について

長期使用によりペレットストーブ燃焼炉内や排気経路である排気ダクト、排気ファン、給排気管内に灰やススが付着してきます。灰やススが大量にたまると、正常に給排気ができず不完全燃焼を起こしやすくなり、ススの大量発生や部品の早期故障やストーブの適正運転に支障をきたすなどトラブルの可能性が高くなります。

ペレットストーブを長持ちさせ、快適にご使用いただく為に定期的な清掃、点検等メンテナンスの必要があります。

※長期間清掃をしていなかった様子



排気ファン



排気ファン



給排気筒内

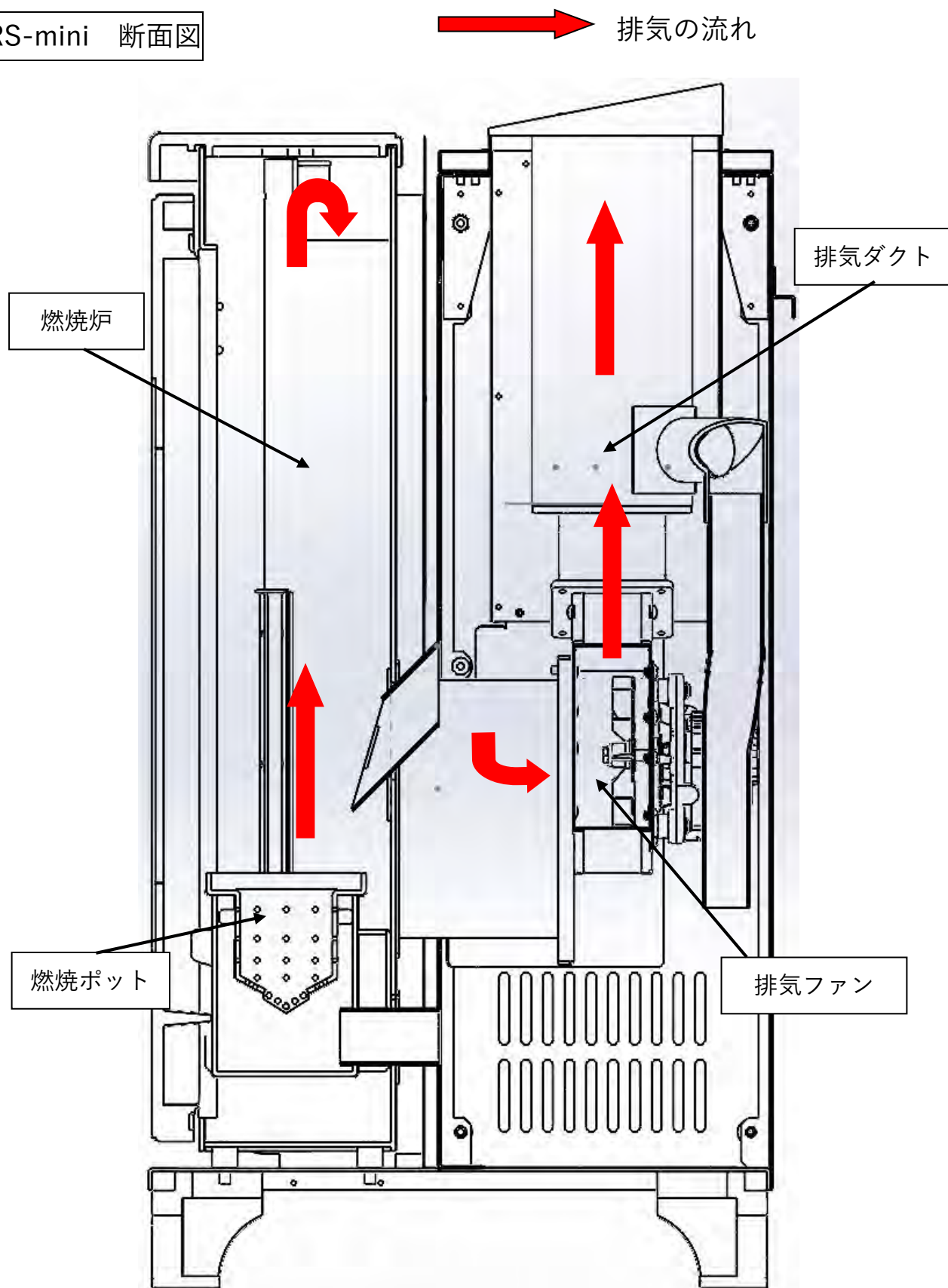


給排気筒内

3. ストープの内部構造

メンテナンスが必要となる箇所は、以下の通りです。

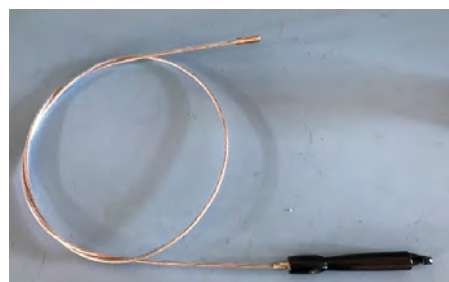
RS-mini 断面図



4. メンテナンス作業に必要な工具類や交換部品

■プラスドライバー（No.2）※ロングドライバー、ショートドライバーも必要
（ロングは 30 cm、ショートは 10 cm推奨）
■板ラチェットドライバー（No.2） ■マイナスドライバー ■カッター
■ペンチ ■スクレイパー ■養生シート（床・壁） ■ウエス ■綿棒
■ビニール袋 ■ブラシ又はハケ※柄が長いブラシ、柔らかい素材も必要
■集塵機(乾湿両用掃除機) ■ザル※ペレットの粉をふるいながら燃料タンク内のペレットを取り除くため ■懐中電灯 ■養生テープ
■本マニュアル ■取扱説明書 ■防塵ゴーグル ■防塵マスク ■手袋

■排気筒掃除用ブラシ（弊社販売品） ■排気筒掃除用棒（弊社販売品）



【注意！】

横引き配管内に溜まった灰やススをブラシ等で外から押し込むと、電装品の排気ファンに灰やススがすべて落ちてしまい、固着することで異音や故障の原因につながるため、排気筒掃除用ブラシ・排気筒掃除用棒は限られた状況でしか使用しません。横引き配管内に溜まった灰やススは集塵機を使用し吸い取ります。

劣化状況や必要に応じて交換する消耗品や補修用性能部品

- ・扉用ガラスロープ
- ・燃烧ポット[内]
- ・排気ファン

※各種交換手順は別紙手順書がございますので、手順書に従い交換を行ってください。

5. メンテナンス作業を行う前に

※室内で作業をおこなう際は、安全な作業スペースを確保し、床や壁に養生を施すなど細心の注意を払い作業をおこなってください。

※必ず防塵メガネ・防塵マスク・手袋を着用して作業をおこなってください。

※作業前に動作確認をして、異音や動作不良の有無を確認してください。

※パネルを取り外す作業のある場合は、電源コードをコンセントから抜いて作業をおこなってください。

※作業終了後は作業周辺を清掃してから、道具の搬出をおこなってください。

6. メンテナンス項目、手順

①燃焼炉

- | | |
|--------------|----------|
| ・ 燃焼ポット（内、外） | ・ 灰受け |
| ・ ペレット投入口 | ・ 燃焼炉内 |
| ・ 給気パイプ | ・ 扉 |
| ・ 耐火ガラス窓 | ・ シャッター内 |

②燃料タンク

- | | |
|------------|---------|
| ・ スパイラルカバー | ・ スパイラル |
| ・ 燃料タンク内 | |

③本体機械室、電装品

- | | |
|---------|----------|
| ・ 排気ファン | ・ 本体機械室内 |
|---------|----------|

④給排気筒

- ・ 給排気筒内

① 燃焼炉

※電源スイッチを『入』にし、排気ファンを回しながらメンテナンス作業をおこなうことで、お部屋への灰やススの飛散を軽減することができます。

- 1) 灰受け、シャッター、燃焼ポット内、燃焼ポット外を取り外しそれぞれの部品を清掃します。

【注意！】

灰受けや燃焼ポットなどの部品は絶対に水洗いしないでください。
破損や金属の腐食の原因となります。



※集塵機で吸い取りながらブラシやスクレイパーを使用し、表面に付着した汚れを取り除きます。（サビは無理に取り除く必要はありません）



（燃焼ポット内）



（灰受け）

2) 燃焼炉内の灰やススを、ブラシを使用しながら集塵機で吸い取ります。



3) ペレット投入口の灰やススを、ブラシや集塵機を使用し除去します。
※灰やススが固着している場合はスクレイパーを使用し取り除きます。



4) 給気パイプ内を集塵機を使用し汚れを吸い取ります。



5) シャッター内に溜まっている灰やススを集塵機で吸い取ります。

【注意！】

シャッター内の奥に排気ファンがありますので、集塵機のノズルやブラシなどを無理に押し込むと排気ファンの故障につながります。

排気ファンに触れないように清掃してください。



6) 扉、耐火ガラス窓を清掃します。

※耐火ガラス窓の汚れが落ちにくい場合は炉内や灰受けに溜まっている灰を濡らしたウエスに付けて拭いたり、薪ストーブ用クリーナーを使用するときれいに汚れが落ちます。

※ガラスロープがほつれていたり、扉を閉めた状態でスキ間が発生している場合はガラスロープの交換が必要となります。



7) 燃焼炉内の清掃後、取り外したすべての部品を取り付けます。

②燃料タンク

- 1) 燃料タンク内のペレットを出来る限り取り除いてから、ショートプラスドライバーや板ラチェットドライバーを使用しスパイラルカバーを取り外します。

スパイラルカバーに付着したススをスクレイパーを使用し取り除きます。

※スパイラルカバー取り外しの際、燃料タンク底にウエスを敷いて作業するとネジの落下や紛失を防ぐことができます。



スパイラルカバー



- 2) 燃料タンク内のペレットをザルを使用し取り除き、ビニール袋に移します。スパイラルのすき間に残ったペレットを集塵機で吸い取ります。

※電源スイッチを入れ、ペレットダイヤルを最大にしてスパイラルを回転させながら作業すると効率的です。



- 3) スパイラルカバーを取り付け、最後に燃料タンク内に残ったペレットの粉を集塵機で吸い取ります。

③本体機械室、電装品

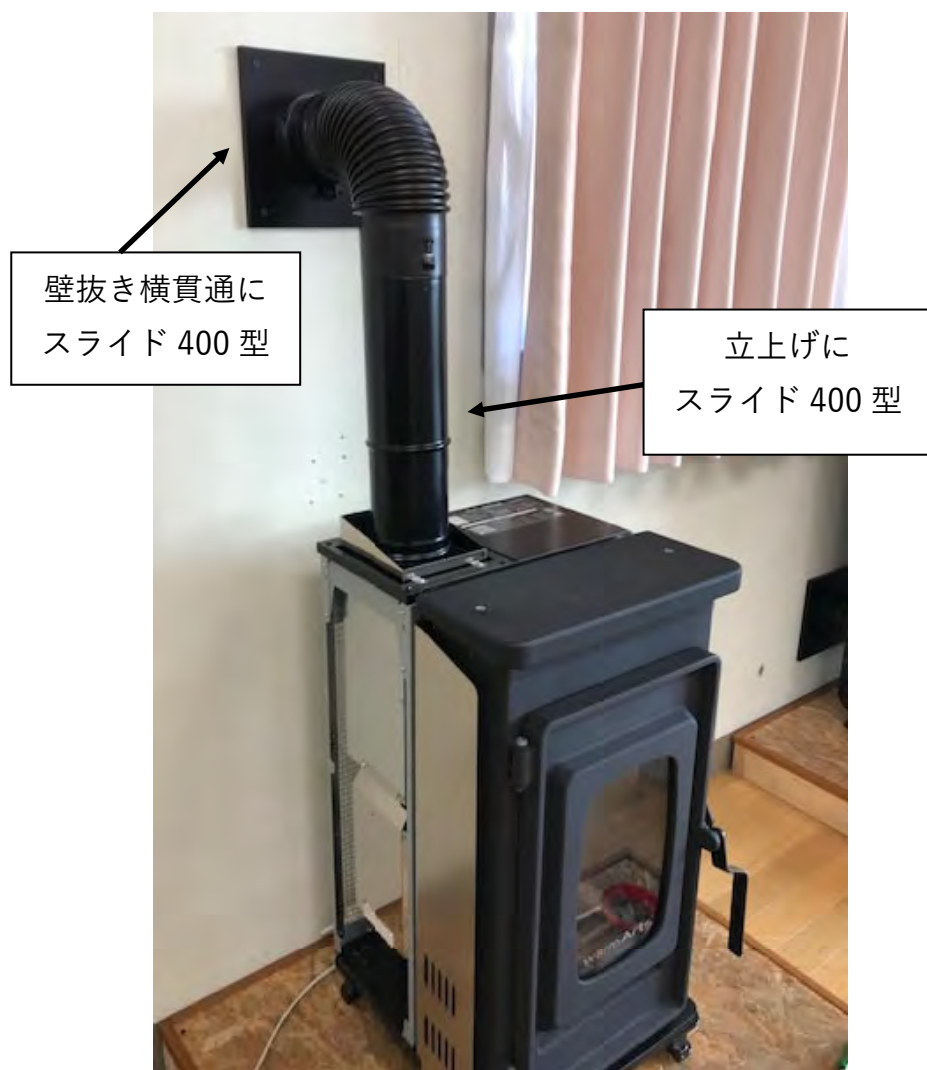
本体機械室を清掃するためには両側面パネルを取り外します。

電装品（排気ファン）を清掃するためにはストーブ本体と給排気筒を分離させる必要があります。

ここでは標準的な給排気筒の取り回しでの手順となっておりますが、使用している給排気筒の数が多かったり、壁貫通が高い位置にあったり一人では作業が困難な場合は2名で作業をおこなうようにしてください。

※この手順書での給排気筒の取り回し

- ・スライド 400 型×2 本（立上げと横引きに使用）
- ・90° エルボ×1 本（曲がりに使用）



【排気ファンの清掃】

製造番号でパネルの仕様や排気ファンの仕様を確認し、それぞれのパターンの清掃方法に従い清掃してください。

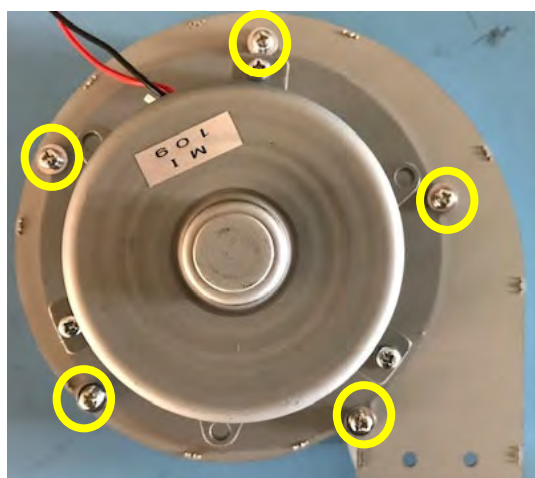
●パターン A (P13 へ)

西暦番号に続く 5 ケタの番号が 00451 以降の製品。

または、00450 までの製品で排気ファンユニットを交換した履歴がある製品。

- ・排気ファン（脱着可能）

（ケーシングに取り付けてある 5 個のネジがある）



●パターン B (P20 へ)

西暦番号に続く 5 ケタの番号が 00450 までの製品で排気ファンユニット交換履歴もない製品。

- ・排気ファン（脱着不可能）

（ケーシングに取り付けてある 5 個のネジが無い）



●パターン A の清掃方法

1) 以下の手順に従いストーブ本体と給排気管を分離させます。

※45° エルボ管と排気トップを取り外し、壁貫通の給排気筒の先端にビニール袋を被せて養生テープでビニール袋が外れないようにします。



※プラスドライバー（No.2）を使用し、室内・外の壁面金具のバンドについているネジとナットを取り外してバンドを緩めます。



※床に傷がつくことを防ぐためストーブ本体の脚（4カ所）に養生シートやウェスなどを敷き、室内からストーブ本体を引きストーブ本体と給排気管を抜きます。（ビニール袋が外れないようにゆっくり引き抜きます）



※ストーブ本体に接続されている給排気筒を取り外し、給排気筒内の灰やススが室内に飛散しないようにゴミ袋で覆います。



2) 両側面パネルを取り外します。

【注意！】

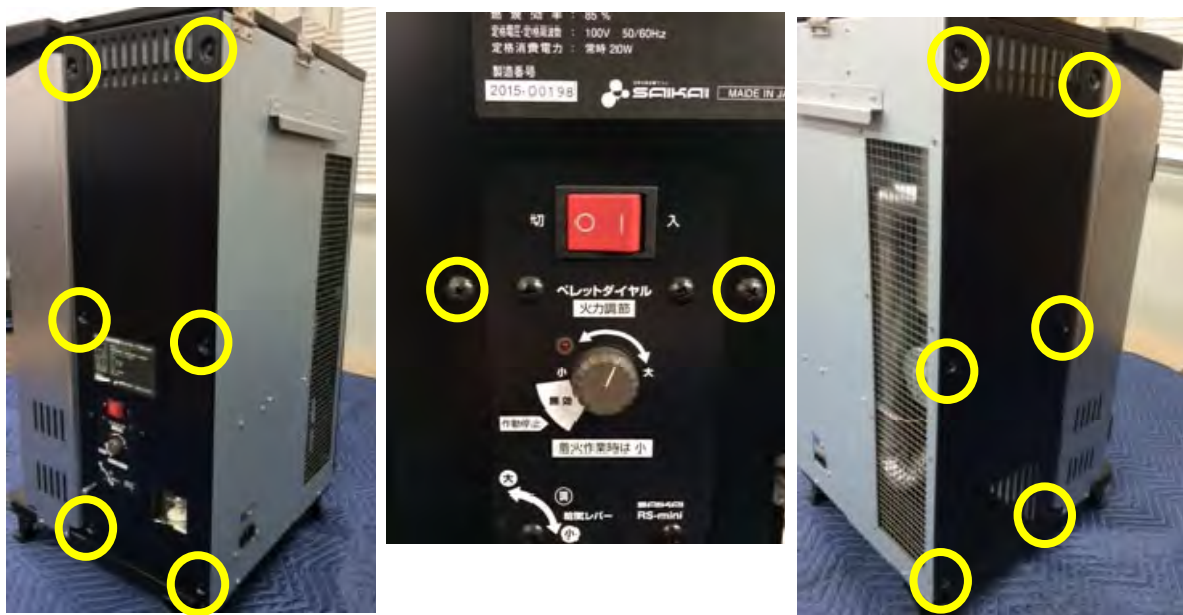
右側面パネルを取り外す前にダンパーグリップを取り外します。

ダンパーグリップのみを、反時計回りに回転させて取り外してください。

シャフトごと反時計回りに回転させると、ダンパーグリップが根元から折れ修復が困難となります。



※下図に示す箇所のネジを外し、両側面パネルを取り外します。



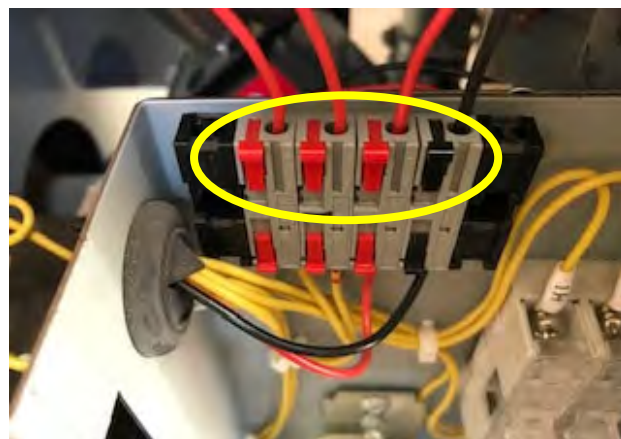
3) 端子台ユニットを取り外します。

※端子台に接続された4本の配線を外します。

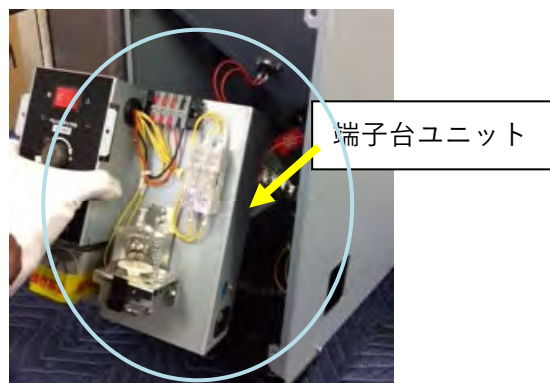
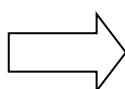
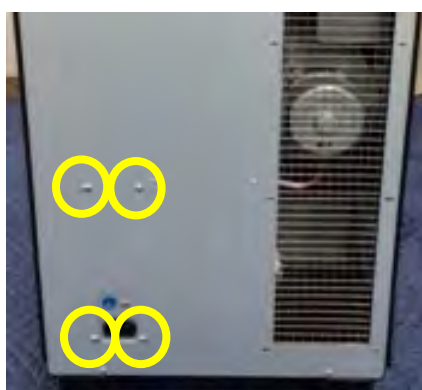
配線ストッパーのツマミを下げると、ロックが解除され配線が抜けますので、絶対に配線を無理やり引っ張って抜かないでください。

端子台上部、左から

- ・ 90℃バイメタルの配線（赤・赤）
 - ・ DC 排気ファンの配線（赤・黒）
- の順となります。



※下図に示すネジを外し、端子台ユニットを取り外します。



端子台ユニット

※端子台ユニットの裏から、スパイラルモータのコネクタを外します。

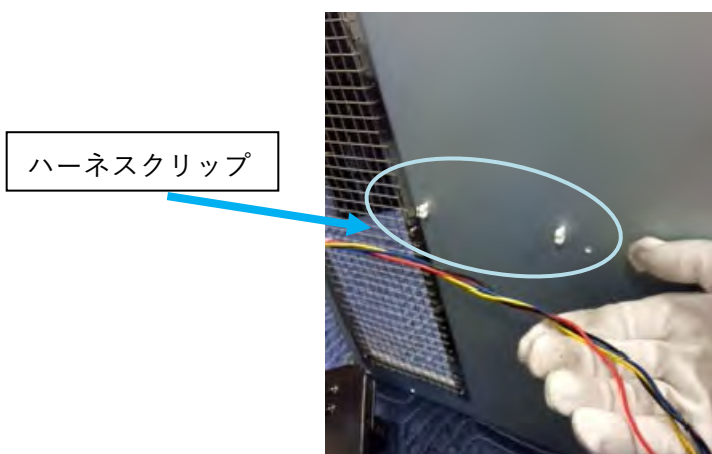
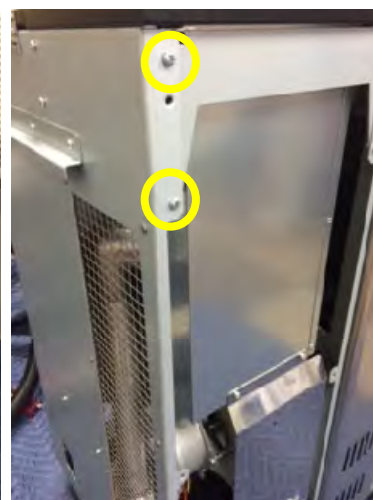


コネクタ

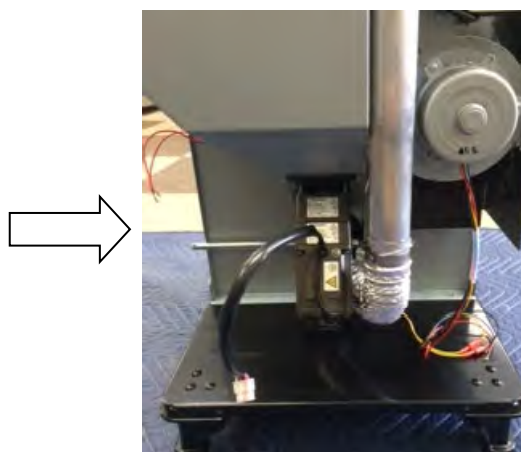
4) 背面パネルを取り外します。

※下図に示すネジを外し、背面パネルを取り外します。

背面パネル内側にハーネスクリップで配線が固定されていますので
ハーネスクリップから配線を取り外してから背面パネルを取り外して
ください。

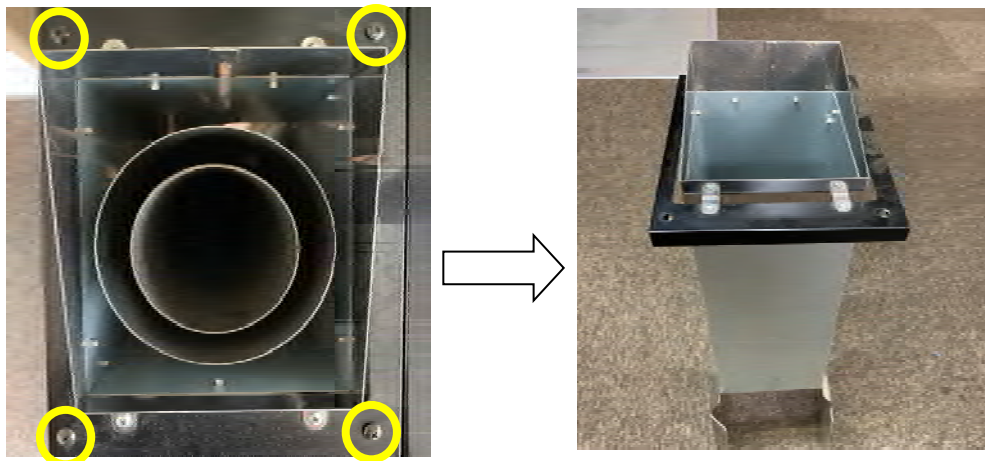


ハーネスクリップ



5) 給排気筒カバーを取り外します。

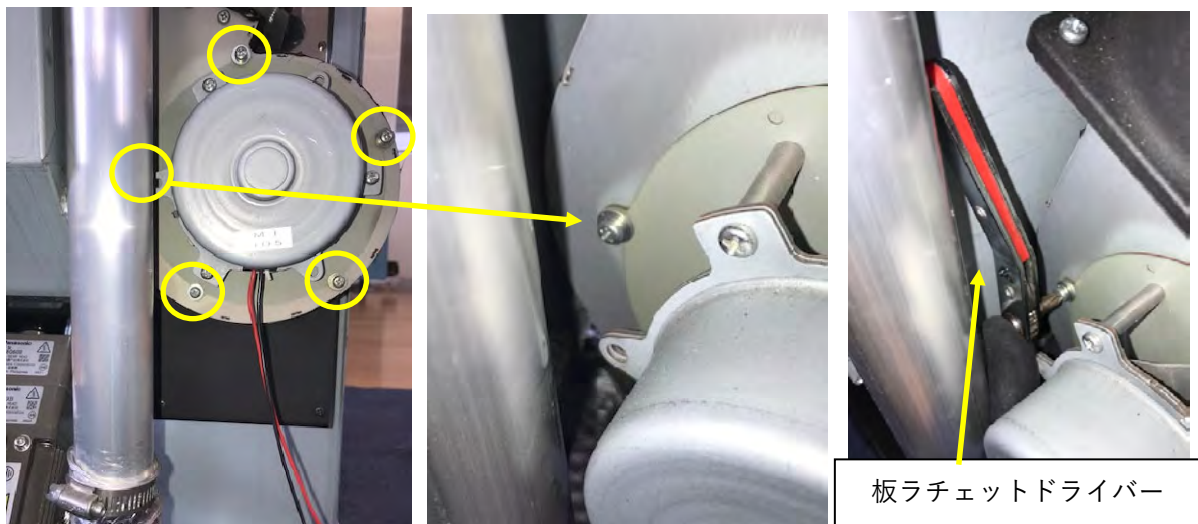
※以下に示すネジを外し、上へ引き上げるように取り外します。



6) 排気ファンを取り外します。

※下図で示す5カ所のネジを外し、排気ファンを取り外します。

1カ所のみ、スペースが狭いため板ラチェットドライバーを使用します。



※ネジを外しても排気ファンが取り外せない場合は、図のようにカッターで排気ファンとケーシングの接触面に切れ込みを入れると取り外せます。



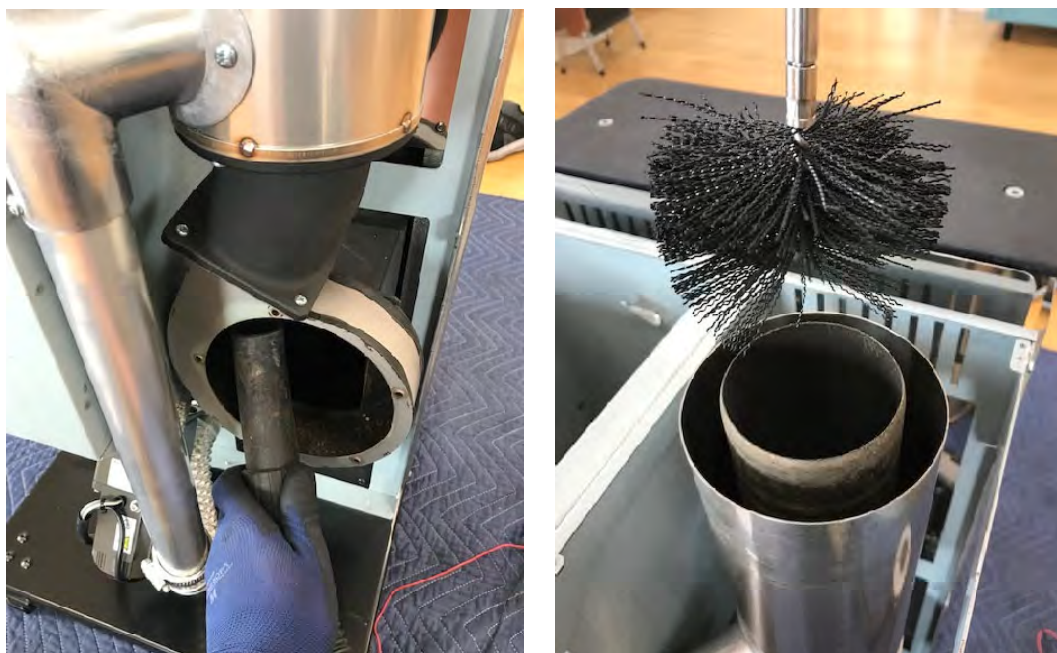
- 7) 排気ファン、排気ファンケーシング、排気ダクトを清掃します。
排気ファンは柔らかいブラシや集塵機を使用して清掃してください。



【注意！】

金属製の固いブラシなどで強くこすると、フィンが変形するなど、軸ブレを起こし異音の原因となります。

※排気ダクトの清掃は、灰やススの飛散を防ぐために排気ファンケーシング内に集塵機のノズルを差し込み、落下する灰やススを集塵機で吸い込みながら給排気筒掃除用ブラシを排気ダクトに差し込み清掃します。



清掃が終わったら、以下の手順で組み立てます。

※それぞれ取り外しのページに戻り確認しながら取り付けてください。

- ・排気ファン取り付け（ネジ 5 カ所で固定）
- ・背面パネル取り付け（排気ファンの配線をハーネスクリップに固定し、ネジ 8 カ所で固定） **配線取り付け位置注意！**
- ・給排気筒カバー取り付け（ネジ 4 カ所で固定）
- ・端子台ユニット取り付け（ネジ 4 カ所固定し、スパイラルモータのコネクタと、端子台に 90° バイメタルと排気ファンの配線取り付け）

●パターン B の清掃方法

1) 以下の手順に従いストーブ本体と給排気管を分離させます。

※45° エルボ管と排気トップを取り外し、壁貫通の給排気筒の先端にビニール袋を被せて養生テープでビニール袋が外れないようにします。



※プラスドライバー（No.2）を使用し、室内・外の壁面金具のバンドについているネジとナットを取り外してバンドを緩めます。



※床に傷がつくことを防ぐためストーブ本体の脚（4カ所）に養生シートやウェスなどを敷き、室内からストーブ本体を引っ張りストーブ本体と給排気筒を抜きます。（ビニール袋が外れないようにゆっくり引き抜きます）



※ストーブ本体に接続されている給排気筒を取り外し、給排気筒内の灰やススが室内に飛散しないようにゴミ袋で覆います。



2) 両側面パネルを取り外します。

【注意！】

右側面パネルを取り外す前にダンパーグリップを取り外します。

ダンパーグリップのみを、反時計回りに回転させて取り外してください。

シャフトごと反時計回りに回転させると、ダンパーグリップが根元から折れ修復が困難となります。

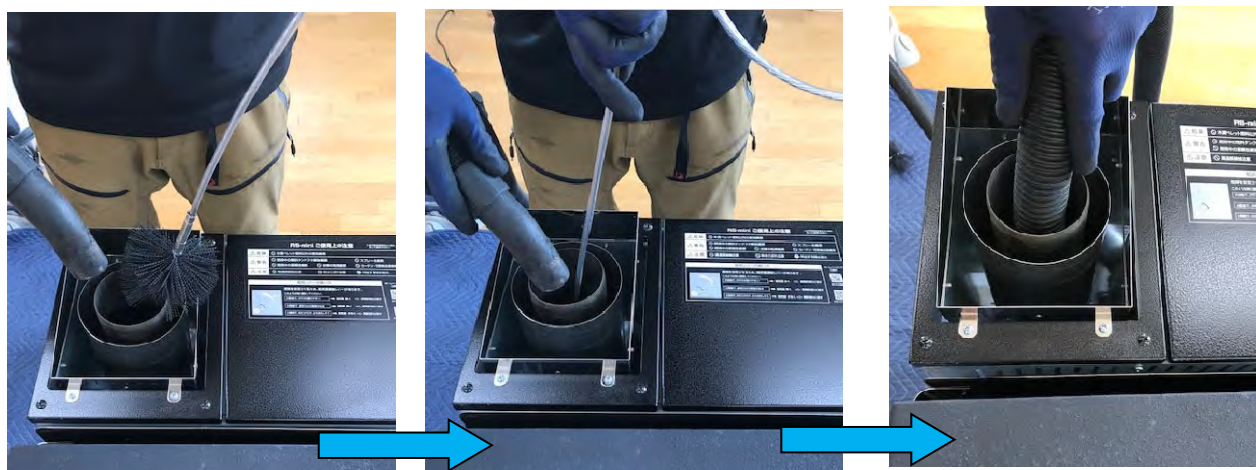


※下図に示す箇所のネジを外し、両側面パネルを取り外します。



3) 排気ダクト、排気ファンを清掃します。

※集塵機で吸い込みながら、給排気筒掃除用ブラシを差し込み、排気ダクト内を清掃します。



※最後に集塵機のノズルを奥まで差し込み、排気ファンの灰やススを吸い取ります。(ブラシは差し込みません)

右図で示す範囲を清掃します。

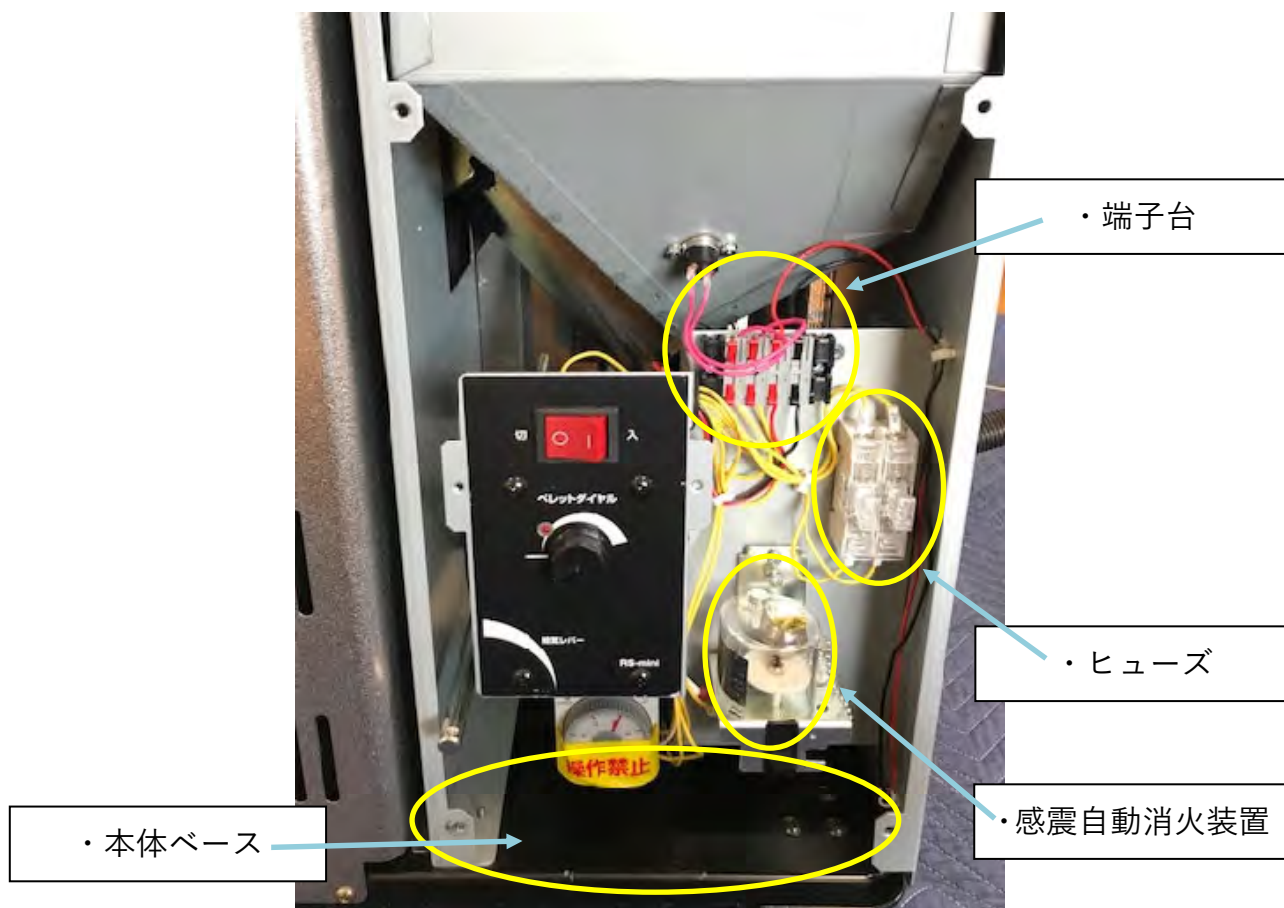
奥まで集塵機のノズルを差し込みすぎると排気ファンに接触し、故障の原因となりますので、差し込み過ぎに注意しながら清掃してください。



【本体機械室内の清掃方法】

1) 柔らかいハケ、集塵機を使用し機械室内のホコリを除去します。

○印内を特に注意して清掃を行ってください。



※本体機械内、電装品の清掃が終わったら、両側面パネルを取り付けます。

④給排気筒

【本体と給排気筒を外した場合】

- 1) 取り外した給排気筒を、給排気筒用棒・ブラシを使用して清掃します。
屋内への灰やススの飛散防止のため、必ず屋外で清掃してください。
屋外で清掃できない場合は必ず床に養生を敷き、ビニール袋で給排気筒の端を覆い、集塵機で吸い取りながら清掃してください。



【本体と給排気筒が接続してある場合】

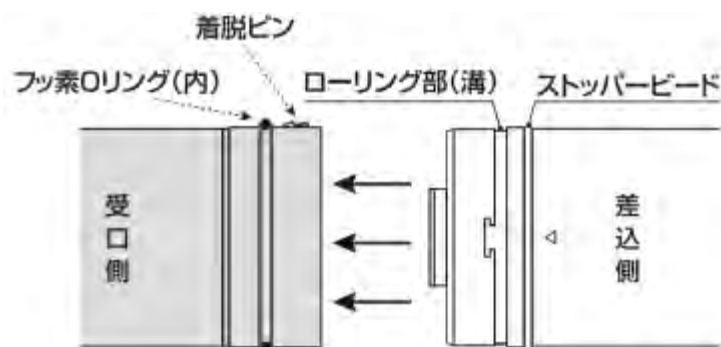
- 1) 45° エルボ、排気トップを取り外し、集塵機のノズルを給排気筒へ差し込み灰やススを吸い込み清掃します。



【注意！】

給排気筒用棒・ブラシを差し込んで清掃すると、横引き配管内の灰やススが排気ファン内に落下してしまうので、集塵機を使用し吸い取りながら清掃してください。

※給排気筒接続部を取り外した場合は、接続部内部のOリングを新しいものに交換してください。



※Oリングはストーブ運転中の排気熱により焼き付き、給排気筒が外しにくくなる場合があります。

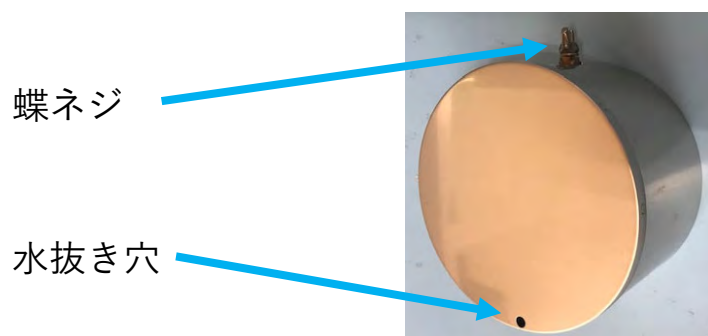
※シーズンオフの防虫・防鳥対策

周囲の環境により、給排気筒出入り口から虫や鳥が内部に侵入することがあります。

エンドキャップ（別売りオプション）をご使用いただくと防虫・防鳥の対策ができます。

【エンドキャップの使用方法】

- ・水抜き穴を下に向けてセットしてください。
 - ・給排気筒が変形する可能性がある為、蝶ネジを閉めすぎないように注意してください。
- 少し抵抗がかかる程度の締め方で問題ありません。



7. 動作確認

- 1) 電源プラグをコンセントに差し込み、感震自動消火装置をセットします。
- 2) 電源スイッチを入れ、排気ファン、スパイラルモータの作動を確認します。
- 3) 消耗品交換が必要な場合は、別紙の修理マニュアルを参照し交換します。

※作動確認時に異常が見つかった場合は、弊社までご連絡ください。



株式会社 新越ワークス
エネルギー事業部

〒959-1286 新潟県燕市小関681番地
TEL(0256)64-8580(代)
FAX(0256)63-7977

受付時間：祝祭日を除く平日9:00～17:00